

日本で選挙に行かない人が多いのはどうしてか？

近年、日本では選挙権を持っているにも関わらず選挙に参加していない人が多い。それに伴い、選挙年齢を18歳に引き下げたが、なかなか選挙への参加率は伸びないでいる。また、若者の選挙不参加の問題に加えて、高齢者や中年の人も選挙に参加しなくなっている人が増えているように思う。

このような問題を踏まえて、日本の選挙に行かない人が多い理由は人々の社会問題への関心が薄いことと、情報社会での過剰報道や過剰反応であると思う。

まず、選挙に参加してもらうためには、社会問題に関心を持ってもらう必要がある。なぜなら、社会問題に関心がないと、日本のよりよい社会づくりに参加しようと思わないからだ。政府は、環境問題対策や税制策を打ち出しているが、問題が解決していない以上、私は国民がこれらの策に同意し、積極的に参加してるとは思えない。政策を本当の意味で実行するためには、まず国民に社会問題への関心を持ってもらい、行動してもらう必要がある。そのために国民が社会問題を知る機会や選挙の立候補者のマニフェストを聞き、理解する機会を増やし、より多くの国民に政治に関心を持ってもらい、選挙に参加してもらうべきだと思う。

それに加えて、現代の情報社会では、政治家の汚職などを過剰報道やそれに伴う過剰反応、そしてSNS上で信頼性のない情報が出回ったりしているために、政府や政治家に悪いイメージをもち、選挙に行かなくなる人が増えていると思う。だから、国民は情報リテラシーを活用し、きちんとした情報を見分ける必要がある。そのためには、学校や会社で情報リテラシーを育成する必要があると思う。

私は、多くの国民に社会問題や政府に興味を持ってもらい、過剰な情報に惑わされずに、よりよい社会づくりのために選挙に参加してほしいと思う。(8組A)

「豊かさ」とは何か？

現在、日本では「食」や産業の面また自然環境の面でもいくつかの課題が見受けられる。そこで私は、それぞれの分野をまとめて発展させ、持続可能な社会につなげることができないかと考え、「豊かさ」というテーマを選んだ。

まず、「食」に関する課題として食糧自給率の低下、海外のものに頼ることで農業や添加物への不安が増すことがある。これは、農地が少ないという理由以外に第一次産業の労働人口減少も関わっていると考えた。高齢化が進んで生産効率が低下、後継者不足が起きているために国内での生産が足りていないのだと思う。次に、自然環境の面では、動植物が減り絶滅しかけているものが多くなっている。

このような問題を解決する方法として、鹿児島で行われていることを例にとってみる。まずは、第

六次産業化だ。これは、第一次産業を行う農林漁業者が、食品加工の二次産業と流通・販売を行う三次産業も行うことだ。これを行うことによって、事業者の収入が安定し経営を拡大させることもでき、また雇用を増やすことも可能になる。経済と産業の発展が期待できる。次に、サンゴを守る漁業も行われている。なぜサンゴを守るのかというと、サンゴは陸上植物より二酸化炭素を吸収し、光合成と同じ働きをしているからだ。そのため、漁業者が中心となって、サンゴの敵であるオニヒトデの駆除を行ったり管理するなどしている。これは自然保護といえる。

このように、鹿児島では工夫が行われている。私の考える「豊かさ」とは、産業がそれぞれ衰えることなく活発な状態で、それに伴って経済も安定し食料を国内で十分にまかなえること、自然保護にも力を入れていることだ。鹿児島で行われている例から、それぞれを関連づけて発展、「豊か」にすることが可能だとわかった。(8組B)

グレタさんの発言を批判するのはどういう人たちが

9月23日、ニューヨークで国連気候行動サミットが開かれた。ここで行われたグレタ・トゥーンベリのスピーチについて多くの声が上がっている。

グレタはスピーチで、「生態系全体が崩壊し、大量絶滅の危機の始まりにさしかかっているのに、あなたが語り合うのはお金や経済成長のおとぎ話だけ。よくもまあ、そんなことができる！あなたたちは成熟していない。」と、とげのある発言をした。大きな態度をとり、怒りを表した彼女に寄せられた言葉の多くは批判だった。

どのような人が彼女を批判するのか。例としてトランプをあげる。彼はツイッターで「本当にばかっている」とつぶやいた。しかし、彼女は真実を話ただけだと考える。多くのサミットが開かれ、目標が決まるが、果たしてどのくらい行動に移されただろう。彼女が焦るのも無理はない。未来に生きる若者にとって現実問題を無視できないのは当然だ。だから、批判をする人たちは環境問題を軽視していると言える。もしくは、事実をつきつけられ、それをプライドを理由に受け入れていない人たちである。

しかし、私はグレタの態度と口調にも問題があったと考える。なぜなら、人と話し合いをする際、冷静になることは大切だからだ。実際に、1992年6月に開かれた環境サミットでセヴァン・スズキは12歳とは思えない大人っぽい様子で、「どうやって直すか分からないものを壊し続けるのは、もう止めてください。」と、スピーチをし、後に伝説のスピーチと呼ばれるようになった。

ここで、私は、聞き手は正しい意見を受け入れ、話し手は受け入れられるスピーチをすべきだと考える。これを実行することで、多くの人々が理解し合えるサミットにしていきたい。

(8組C)